

Peach 初号機エアバス A320(JA801P)本日、感謝のラストフライト ～アジアのかけ橋として飛び続けた7年半～

- ・ 2011年11月、新造機としてエアバスから受領した初号機
- ・ 国内LCCの初便、かつPeachの初便として2012年3月1日に運航開始
- ・ ラストフライトは、就航初日に乗務したパイロットと客室乗務員も担当

Peach Aviation 株式会社(以下: Peach、代表取締役 CEO: 井上 慎一)は、5月3日、Peach の初号機として2011年11月に受領した機材であるエアバス A320-200型機(登録番号: JA801P)が、本日の運航をもって退役となり、ラストフライトを終えたことを発表しました。



ラストフライトを終えた JA801P

エアバス社より新造機として受領したこの初号機が、Peachの拠点空港である関西空港へ降り立ったのは2011年11月10日。その後、各地への訓練飛行を終えた同機は、Peachの就航初日である2012年3月1日に、Peachの初便として大阪(関西)ー札幌(新千歳)線(MM101)を運航しました。国内LCCによる初のフライトでもあった同便は、当時大きな注目を浴びました。

就航時、一般公募により「Peach Dream」と名付けられた同機は、初就航から約7年半、約207万人のお客様を国内各地、およびアジア各国へお運びし、総飛行時間は、20,700時間超、総飛行距離は約1,300万キロメートルで地球約325周分に相当します。総飛行回数は13,883回でした。

ラストフライトである本日の福岡ー大阪(関西)線(MM158)では、パイロット、客室乗務員の計7名が乗務し、うち3名(パイロット1名、客室乗務員2名)は2012年3月の就航初日の福岡行初便も担当しました。初便同様、「Peach Dream」のステッカーを機首に張り付けた同機は172名のお客様を乗せ、17:10に福岡空港を出発、18:22に関西空港へ到着しました。機内では、パイロットや客室乗務員によるラストフライトへの感謝を込めた特別アナウンスが実施された他、CEOの井上が乗客の皆さまへ機体のデザインを施した記念ステッカーを配布しました。

到着後、機長を務めた訓練審査部査察操縦士の岡 恒(おか ひさし)は、「とにかく、7年半の間無事に飛んでくれたことに感謝している。就航当初は801Pを含め3機という少ない機材でのスタートであったが、Peachの機材が増えていく中、初号機としてPeachの成長を支えてくれた。本当に感謝している」とコメントしました。



ラストフライトを終えた運航乗務員と客室乗務員(岡は左から3番目)

Peachの航空機は全て新造機で、約7年半ほどの実使用期間を経て、退役となります。本日ラストフライトを迎えた初号機はPeachにとって初めての退役機材となりました。

現在、Peachでは25機*のエアバスA320を保有していますが、今後も機材の更新や新規導入を計画しており、すでに発表している通り、今後はエアバスA320neo、A321LRを導入予定です。さらに2019年度末を目処に統合するバンニラエアの機材をPeach仕様に改修し、2020年度以降は保有機材50機体制を目指します。

*5月3日現在、JA801Pも所有機数に含む

Peachは今後も、アジアのリーディングLCCを目指し、積極的かつ計画的な機材導入を進めてまいります。

[Peach について\(www.flypeach.com\)](http://www.flypeach.com)

Peach は、2012 年 3 月に関西空港を拠点として運航を開始しました。現在では関西空港に加え、新千歳空港、仙台空港、那覇空港を拠点空港とし、25 機の機材で、国内線 16 路線と国際線 16 路線に就航しています。1 日あたりの運航便数は約 100 便で、毎日 13,000 人以上のお客様にご利用いただいています。Peach は成田空港を拠点空港とするバンニラエアと 2019 年度末をめどに統合し、アジアのリーディング LCC を目指します。